

「ブーム」の危険性

最近、一般の人たちによる外貨の証拠金取引の件数が急増しているという。業界関係者は主婦による外貨投資と呼んでいるようだが、「主婦」というのは象徴的な言い方で、主婦も含むごく一般的な人たちが外貨の証拠金取引をしているという意味である。雑誌などを見ていると、普通の主婦が外貨取引で一億円以上の利益を上げたというような記事まで出ている。

若いときから外国為替市場に多少ともかかわり続けてきた研究者の立場から言わせていただければ、こうした「外貨投資ブーム」は危ういものである。外国為替市場についての標準的な理論に従えば、為替レート今後の動きについて予想することは不可能である。「効率市場仮説」とも呼ばれるこの考え方の理論的な背景について詳しく説明することは容易ではないが、一般読者の方にもこの考え方はなんとなく理解しても

らえるのではないだろうか。

外国為替と競馬を比べるのは乱暴な話と言われるかもしれないが、両者には似た面がある。長い目で見て、馬券を買って続けて利益を上げるこ
とができるだろうか。「自分は競馬で確実に得をしている」と豪語する人もいるが、私の見たところ多くの人の競馬は勝ったり負けたりとい

素人の「正しい」外貨投資

うことのように。他の人よりも馬の状態を見る見識があり他の人を出し抜くことができれば競馬で勝つことはできる。しかし、もし他の人がより多くの知識と分析力を備えていれば、それを出し抜くのは容易ではない。

外貨投資の場合には、条件はもっと悪い。外国為替市場には、その運用に生活をかけているプロがひしめきあっている。そつした人たちを出し抜いて、素人が「為替投資競争」に勝つことができるのだろうか。も

ちろん、ビギナーズラックということもある。一時的には利益を上げる人もいるかもしれない。ただ、たまたま利益を上げた人が雑誌などで取り上げられて、他の人も外貨投資で一稼ぎしようという気持ちになるのはあまり健全な状況ではない。

もちろん、外貨投資がいけないと言っているわけではない。誰にも、ささやかなギャンブルをする権利がある。宝くじを少しだけ購入して、ひよっとしたら当たるかもしれないと考えるのは、庶民の楽しみの一つ

であろう。馬券を購入することもそうだろう。同じように、少しのお金で外貨投資をしてみようというものいいだろう。外貨投資の場合には、それがきっかけで経済について少し勉強する気になるかもしれない。ただ、大きなお金をかけて大博打を打つのが問題だと言っているのだ。

最近の円高への動きで、大きな損失を出した人もいるのではないかと心配している。こうした動きにこり

外貨投資はこりこりだという人も出てくるかもしれない。ただ、こうした逆の方向に振れるのも問題であるのだ。

誤解されると困るが私は外貨投資が悪いと言っているのではない。「正しい外貨投資」について考える必要があるのだ。短期の為替変動にかけた外貨投資から利益を上げようとすると、少なくとも素人にとって正しい外貨投資ではない。しかし、長期的な資産運用の中で外貨建ての預金や債券などを保有するのは必ずしもギャンブルとは言えないのだ。

五年後、一〇年後に円レートはどちらの方向に動くか分からない。かりに円レートが大幅に円安に動いたら、円資産だけで運用していた人の資産は大きく落ち込むことになる。円安になれば、外国旅行も割高になるし、海外から輸入する食料やガソリンも高くなる。資産の一部（「一部」という点が必要だが）を外貨建ての資産で持っていれば、円高に振れても円安に振れても資産価値をある程度安定的にすることが可能となるのだ。

長期的な目で運用
教授
(総合研究開発機構理事長・東大)